

東京外かく環状道路（関越～東名）工事現場付近での地表面陥没に伴う空洞調査について

第4回 東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会

議事概要

■ 第4回 有識者委員会：令和2年11月27日

【議題】

- ・地表面陥没箇所周辺の地盤調査で新たに確認された地中の空洞について

【議事概要】

- 11月21日に新たに確認された空洞は、空洞深度と幅と地下水の状況等から、直ちに地表面に変状を及ぼすものではなく、緊急的な対応は必要ないが、空洞は早期に充填することが望ましいことを確認した。なお、確認された2箇所の他には、現在進めているボーリング調査において空洞は確認されていないことを確認した。
- 陥没箇所周辺のボーリング調査において続けて空洞が確認されたことから、調査範囲を拡げボーリング調査および物理探査等を追加することを確認した。
- 現在の調査の進捗について報告があり、これらの調査を速やかに完了させることを確認した。また、その結果を用いてできるだけ早く原因究明を進め、今回追加した調査についても得られた結果を原因究明に反映していくことを確認した。
- 引き続き、陥没箇所、空洞確認箇所およびその周辺の監視を重点的に行うとともに、調査の進捗状況について定期的にお知らせするなど、周辺住民からの問合せ等に対し適切に対応するとともに、不安を取り除くことに努めることを確認した。

以上

第4回 東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会

地表面陥没箇所周辺の地盤調査で新たに確認された地中の空洞について

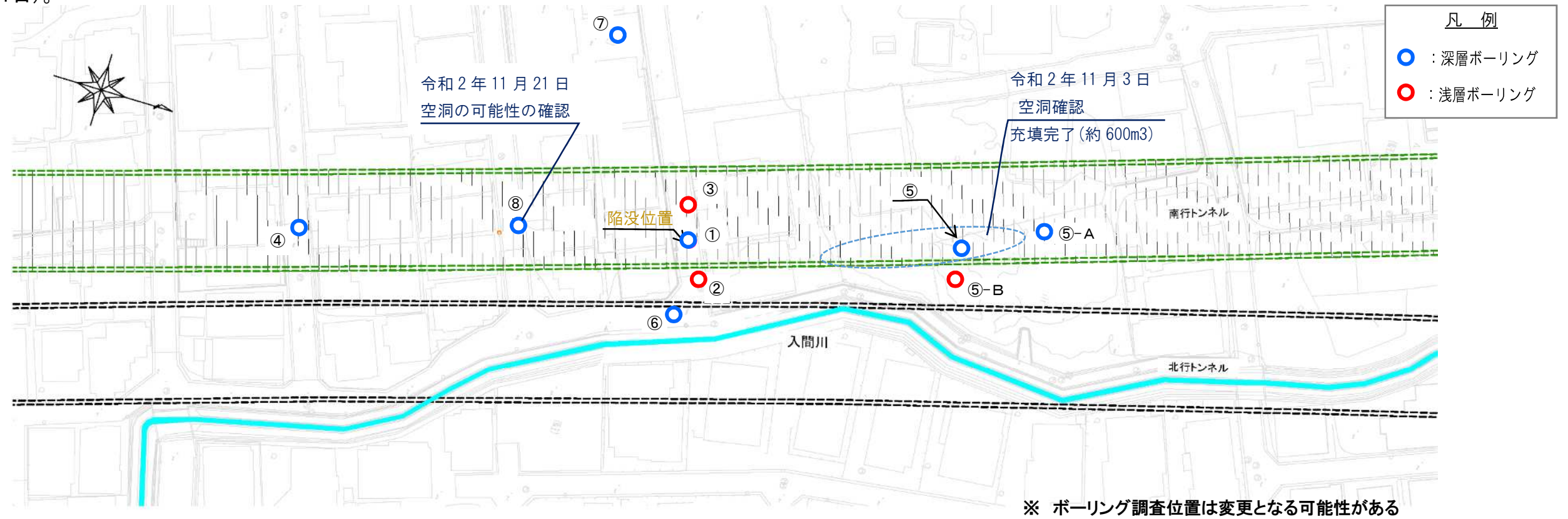
令和2年 11月 27日

東日本高速道路株式会社関東支社東京外環工事事務所
鹿島・前田・三井住友・鉄建・西武特定建設工事共同企業体

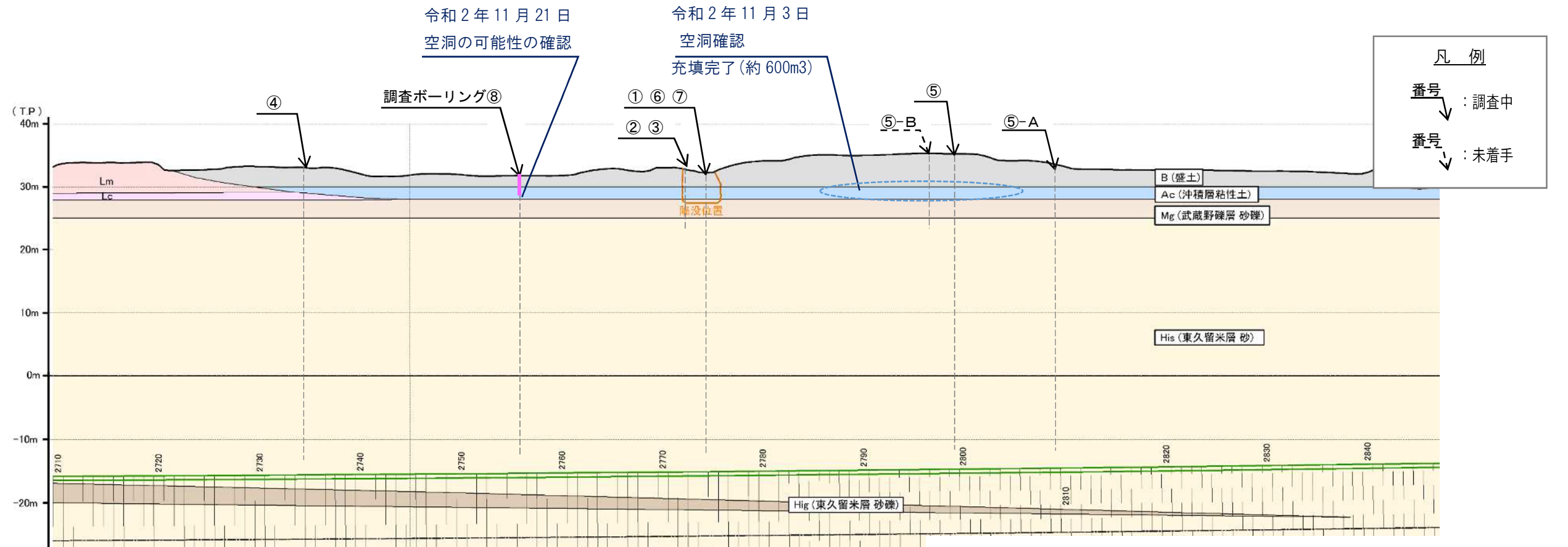
1. 空洞を確認した経緯について

① 位置図

令和2年10月18日に発生した陥没事象の原因究明のために実施していたボーリング調査中に、下図の調査ボーリング⑧において、地表からの深度約4mの位置に空洞の可能性を確認した（令和2年11月21日）。



② 縦断図



③時系列

日付	時刻	内容
11月21日	14:00	陥没箇所から約30m南にて、ボーリング調査中に空洞の可能性を確認(地下約4m) 空洞範囲の調査の着手を指示(レーザースキャナ等の手配) 常時監視体制を構築(以降体制構築)
	20:00~翌2:00	空洞範囲の調査に着手 レーザースキャナ等による調査実施 ・地下水面上の確認の結果、幅約3m×長さ約27mの空洞を確認 NEXCO 東日本が有識者に空洞の対応について見解を伺う。 ・有識者見解「空洞深度と幅と地下水の状況等から、直ちに地表面に変状を及ぼすものではなく、緊急的な対応は必要ないが、空洞は早期に充填することが望ましい」 NEXCO 東日本から近隣住民へ説明開始
11月22日	9:00~	NEXCO東日本から近隣住民へ充填作業の実施を説明 充填作業準備の着手
11月23日	9:00~	充填作業開始

2. 空洞調査概要について

地表からの深度約4m位置に空洞がある可能性が確認されたため、次の調査により空洞の広がり等について確認を行った。

調査項目
3Dレーザースキャニング
計測

概要
ボーリングロッド内から
レーザー測距器をいれ
空洞内面の形状寸法
を計測

結果
レーザースキャニング
で空洞の形状大きさを
確認

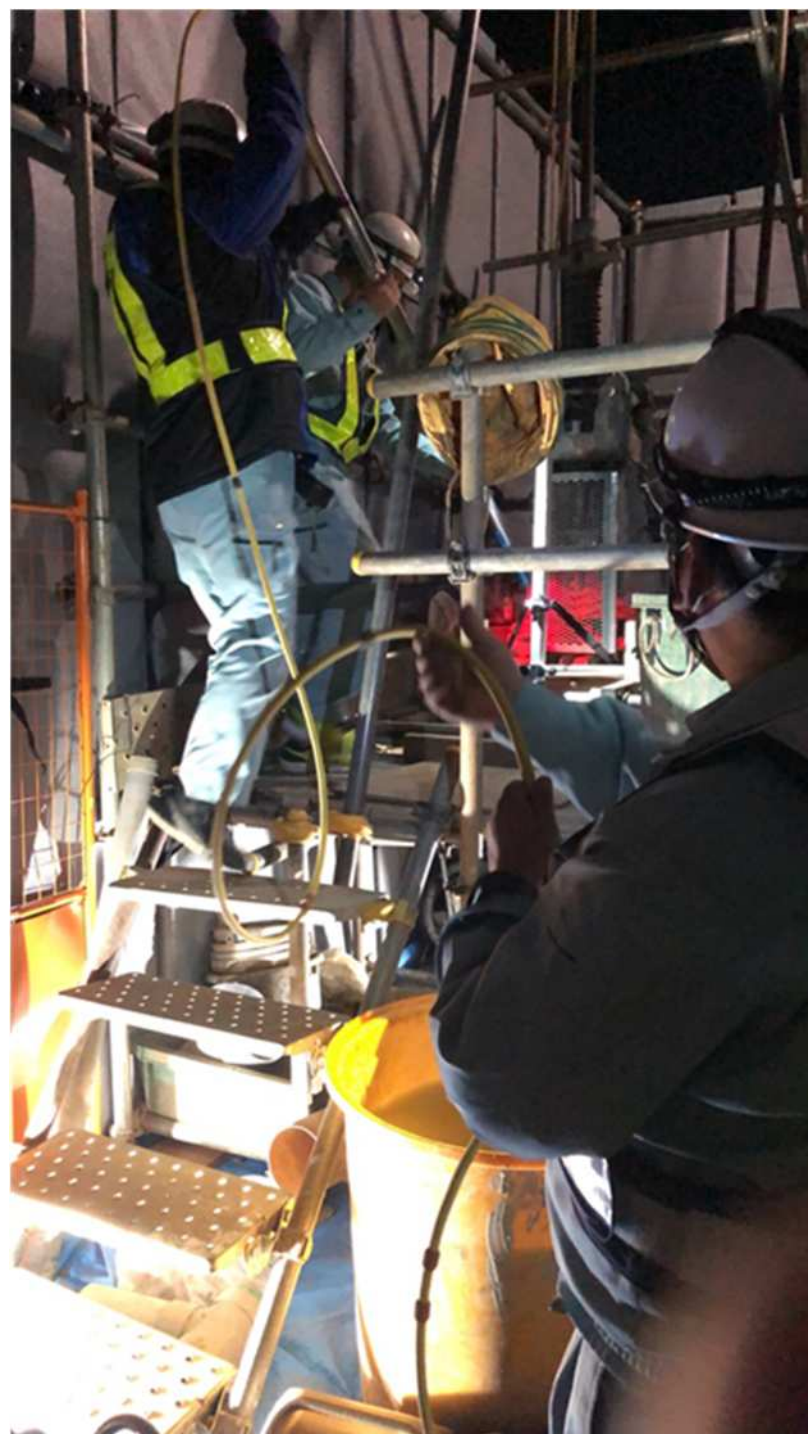


写真1 3Dレーザースキャニング装置

調査項目
ポアホールカメラ観察

概要
空洞が確認されたボー
リングロッド内にカメラを
挿入して空洞内部の状
況を確認

結果
地下水の存在を確認



写真2 ポアホールカメラ観察

調査項目
地下水採取

概要
地下水の成分分析を実
施
(成分分析中)

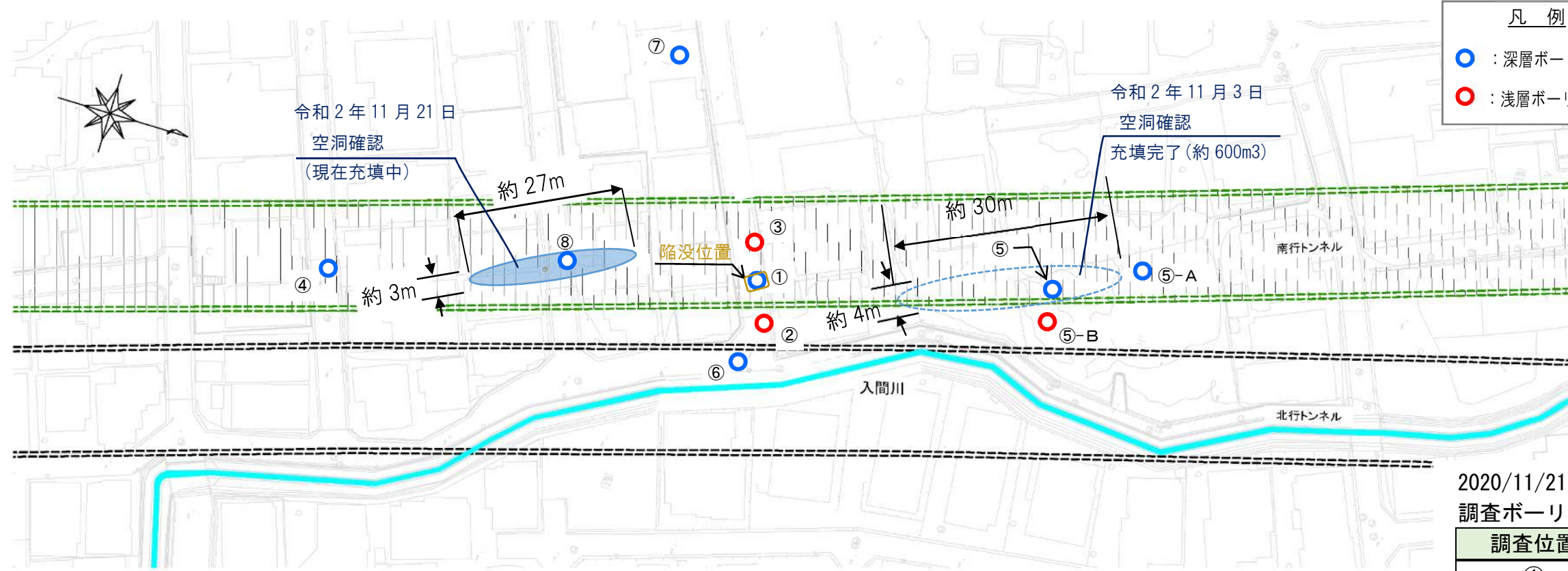


写真3 地下水採取

3. 空洞の調査結果について

3D レーザースキャナー等による空洞計測の結果、空洞深度約 4m、幅約3m×長さ約27m、厚さ約4m程度の空洞を確認した。
 なお、調査ボーリング⑤・⑧以外において現時点では空洞は確認されていない

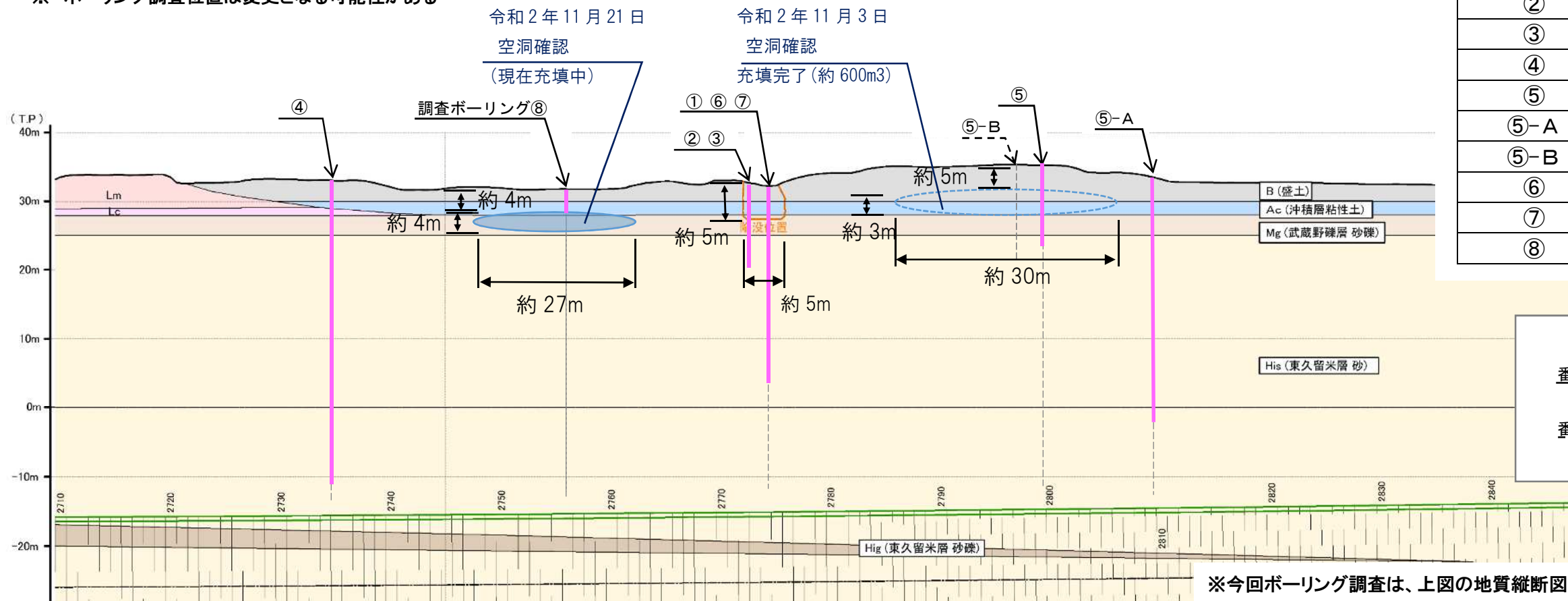
① 空洞形状



凡例

- : 深層ボーリング
- : 浅層ボーリング

※ ボーリング調査位置は変更となる可能性がある



2020/11/21 現在
調査ボーリング実施状況

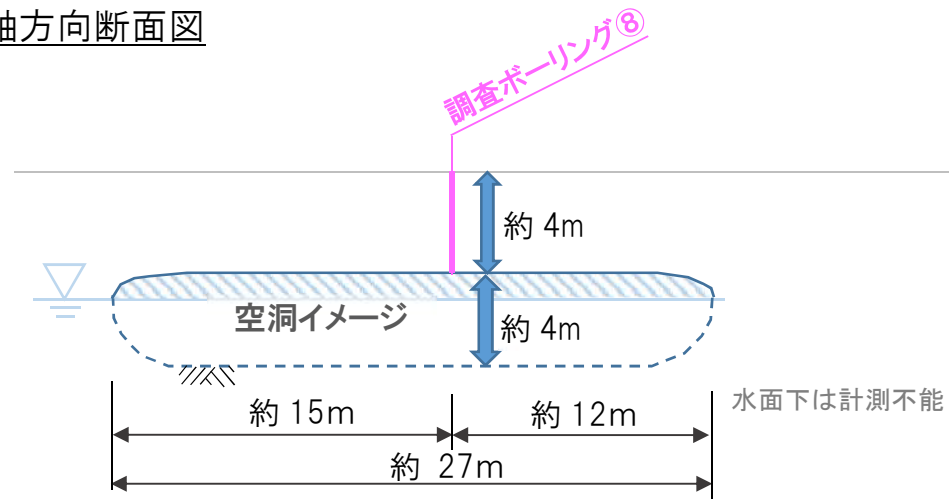
調査位置	削孔深度
①	28 m
②	14 m
③	15 m
④	44 m
⑤	13 m
⑤-A	38 m
⑤-B	—
⑥	43 m
⑦	8 m
⑧	4 m

凡例

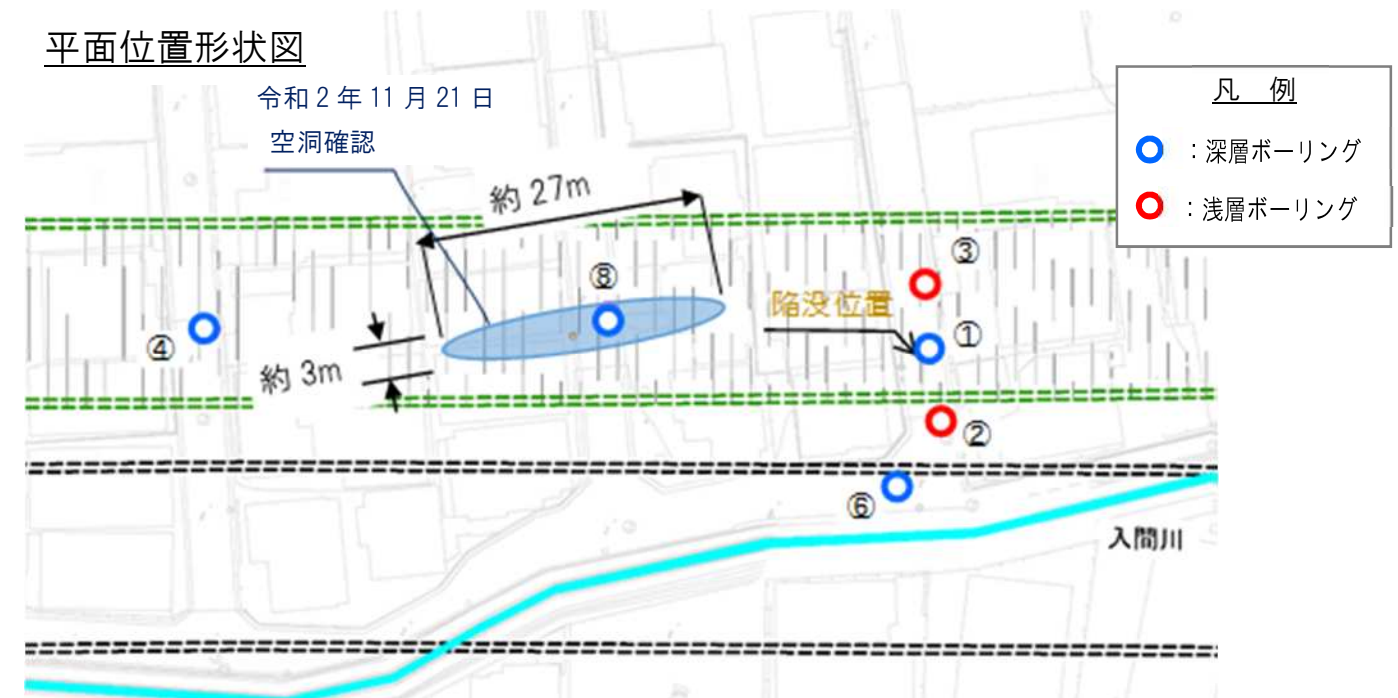
- 番号 ↓ : 調査中
- 番号 ↓ : 未着手

※今回ボーリング調査は、上図の地質縦断図には反映されていない

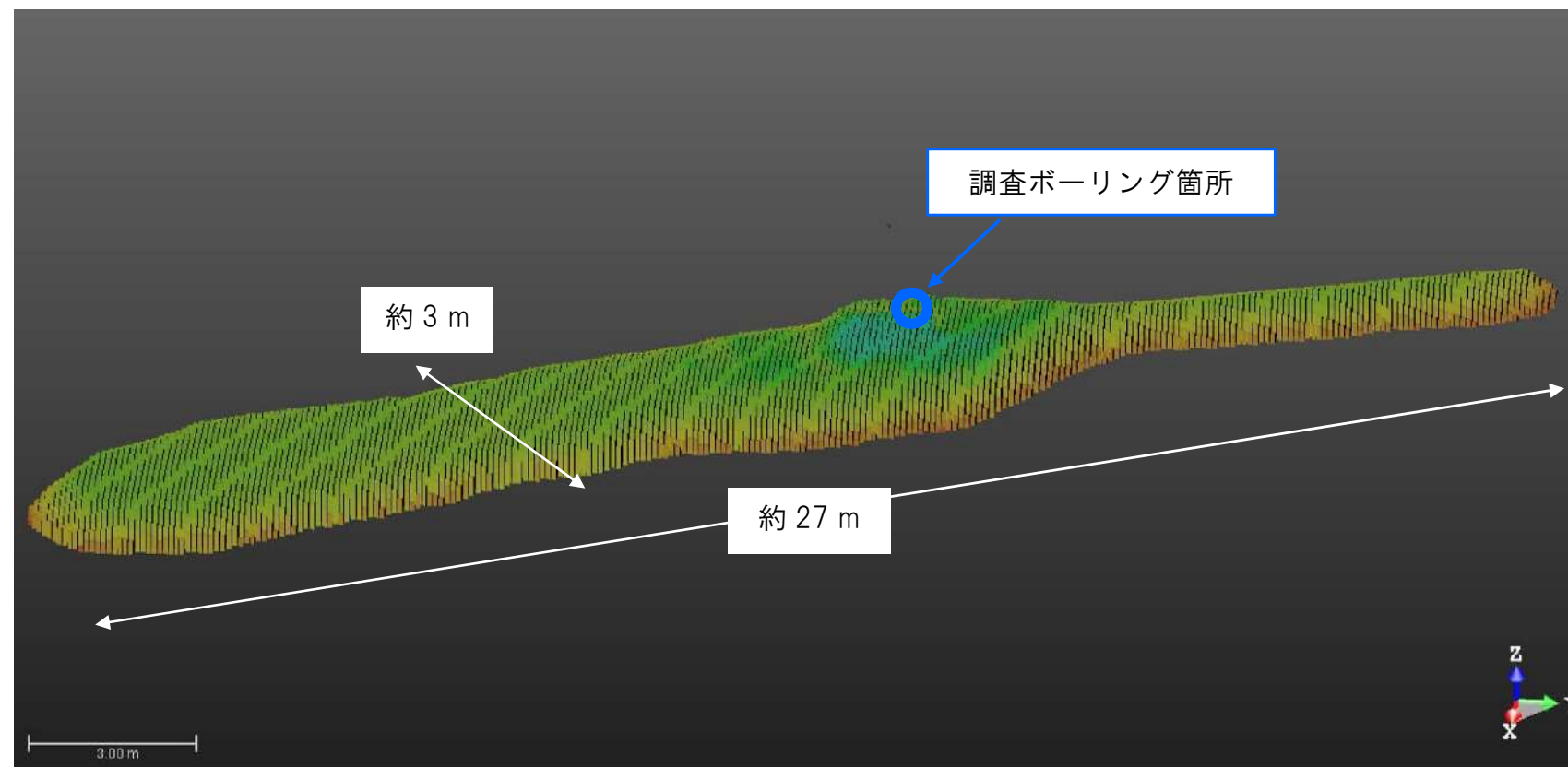
軸方向断面図



平面位置形状図



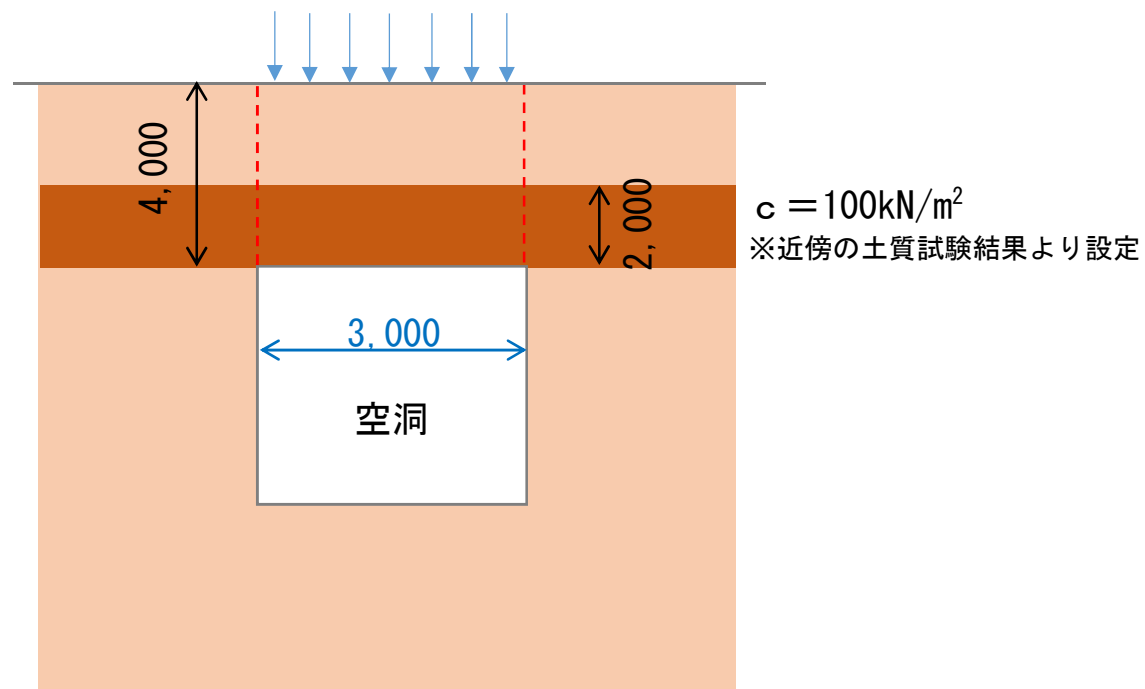
3D レーザースキャナーによる空洞計測結果



※ 画像は、水面上部の空洞を表しています。
※ データ処理上の画像であり、着色に意味はありません。

②空洞の評価について

空洞上部の土砂粘着力から算定される地耐力としては、安全率を3とした場合、20.4kN/m²程度であると推定される。



ボーリング調査より、地表からの深度約2 mから4 mの位置において硬質な粘土層の存在が確認された。そのため、2 m程度の硬質な粘土層に対して、空洞短辺方向の2面せん断による抵抗力を算定する。

$$\begin{aligned} \text{抵抗力} & 100 \text{ kN/m}^2 \times 2.0 \text{ m} \times 2 \text{ 面} = 400 \text{ kN/m} \\ \text{自重} (\gamma=1.8) \text{ を控除すると} & 18 \text{ kN/m}^3 \times 4.0 \text{ m} \times 3.0 \text{ m} = 216 \text{ kN/m} \\ \text{上載荷重限界} & 400 \text{ kN/m} - 216 \text{ kN/m} = 184 \text{ kN/m} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{限界荷重 } q &= 184 \text{ kN/m} \div 3.0 \text{ m} = 61.3 \text{ kN/m}^2 \\ \text{安全率 } 3 \text{ とすると、} & q_a = 61.3 \text{ kN/m}^2 \div 3 = 20.4 \text{ kN/m}^2 \end{aligned}$$

表 4.1.2 上部構造荷重の目安値（建築面積当たり）

w = 4.0 kN/m ²	一般地域の平屋
7.0	一般地域の2階建，多雪区域（積雪100cm）の平屋
10.0	一般地域の3階建，多雪区域2階建
12.5	多雪区域の3階建

注：上記の荷重は、1階床荷重および基礎の自重は含まれていない。

出典：小規模建築物基礎設計の手引き 1988年 日本建築学会

4. 監視体制および追加調査の計画

① 監視体制

自動測量を配置し、空洞箇所への充填完了まで、空洞箇所の24時間監視を行う。

② 追加調査の計画

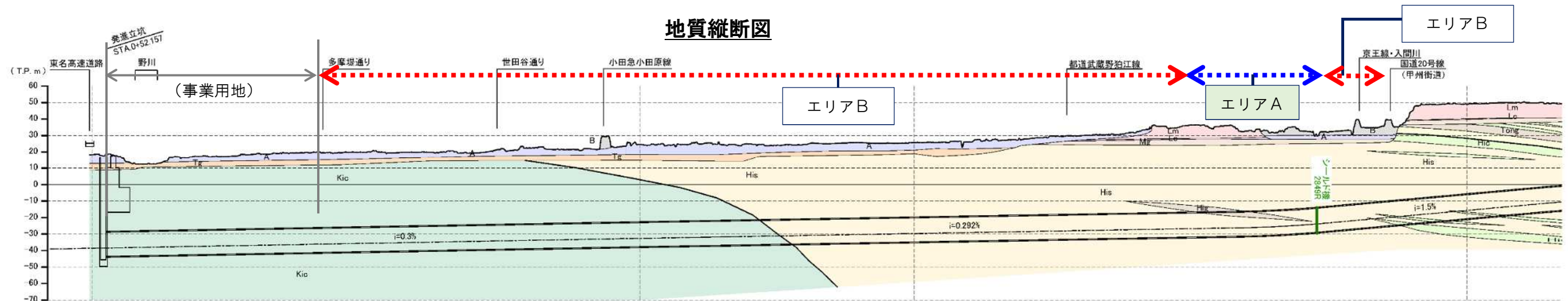
陥没事象および2度にわたる空洞発見を踏まえ、周辺地域およびこれまで掘り進めてきた区間において、深度約10m程度までの地盤状況及び空洞の有無を確認するため、次の調査を追加する。

エリアA: 陥没箇所周辺と地質が類似している区間

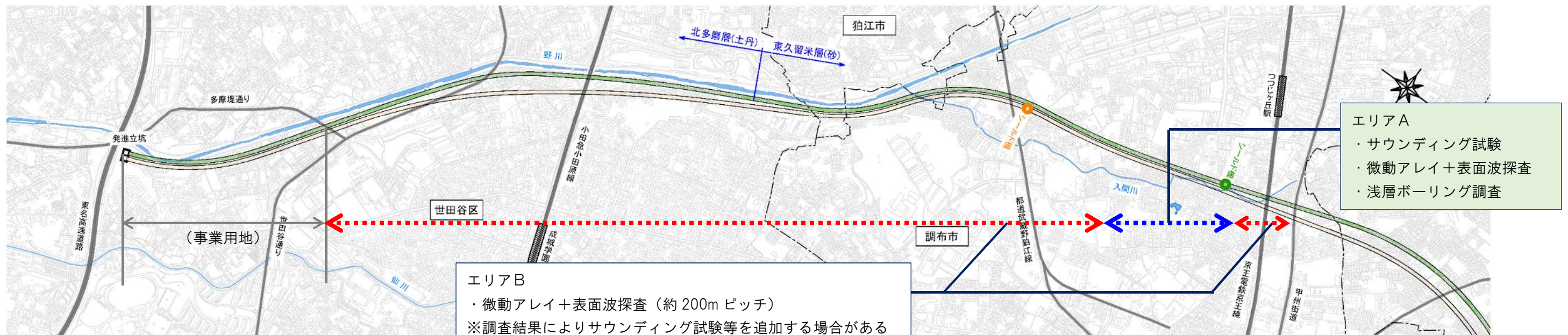
- ・陥没箇所周辺におけるサウンディング試験
- ・物理探査(微動アレイ探査、表面波探査)による地盤状況の確認
- ・浅層ボーリング調査

エリアB: その他区間

- ・物理探査(微動アレイ探査、表面波探査)による地盤状況の確認

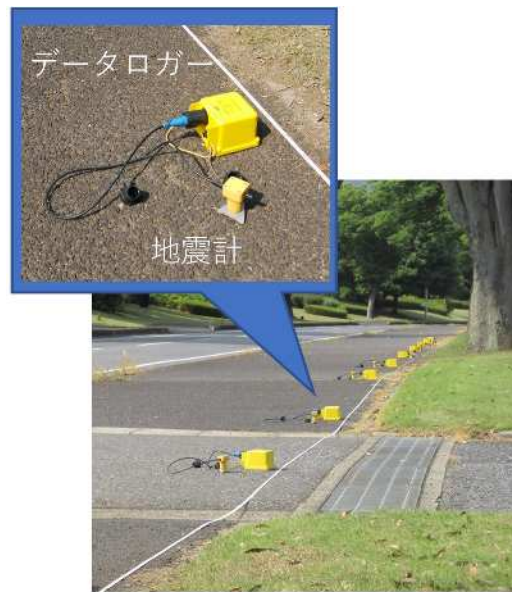
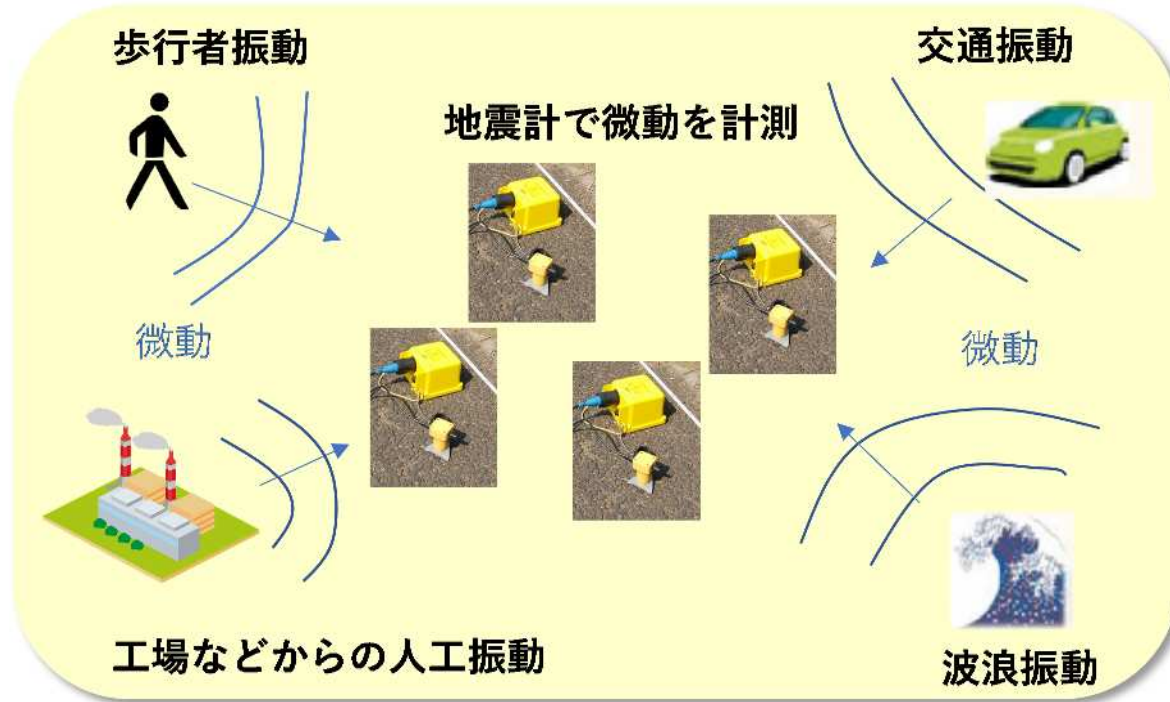


平面図



【微動アレイ探査】

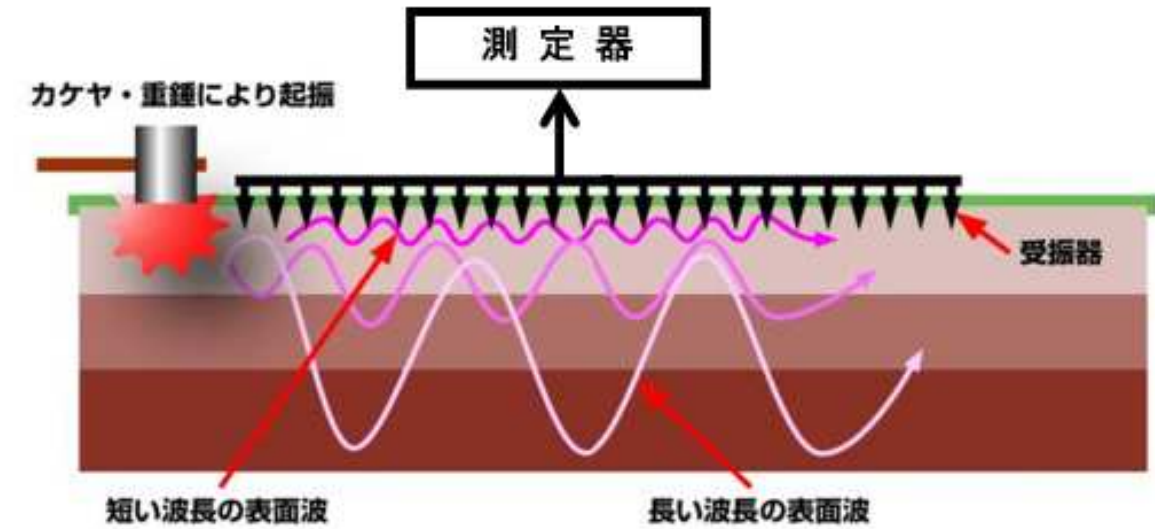
地表面から行う地盤の物理探査手法。地盤は微小な振動(人工振動・交通振動・海岸線に押し寄せる波浪振動)などによって絶えず振動をしており、この微小な振動を測定・解析することにより地下の構造を把握する。



微動アレイ探査の概念(イメージ)

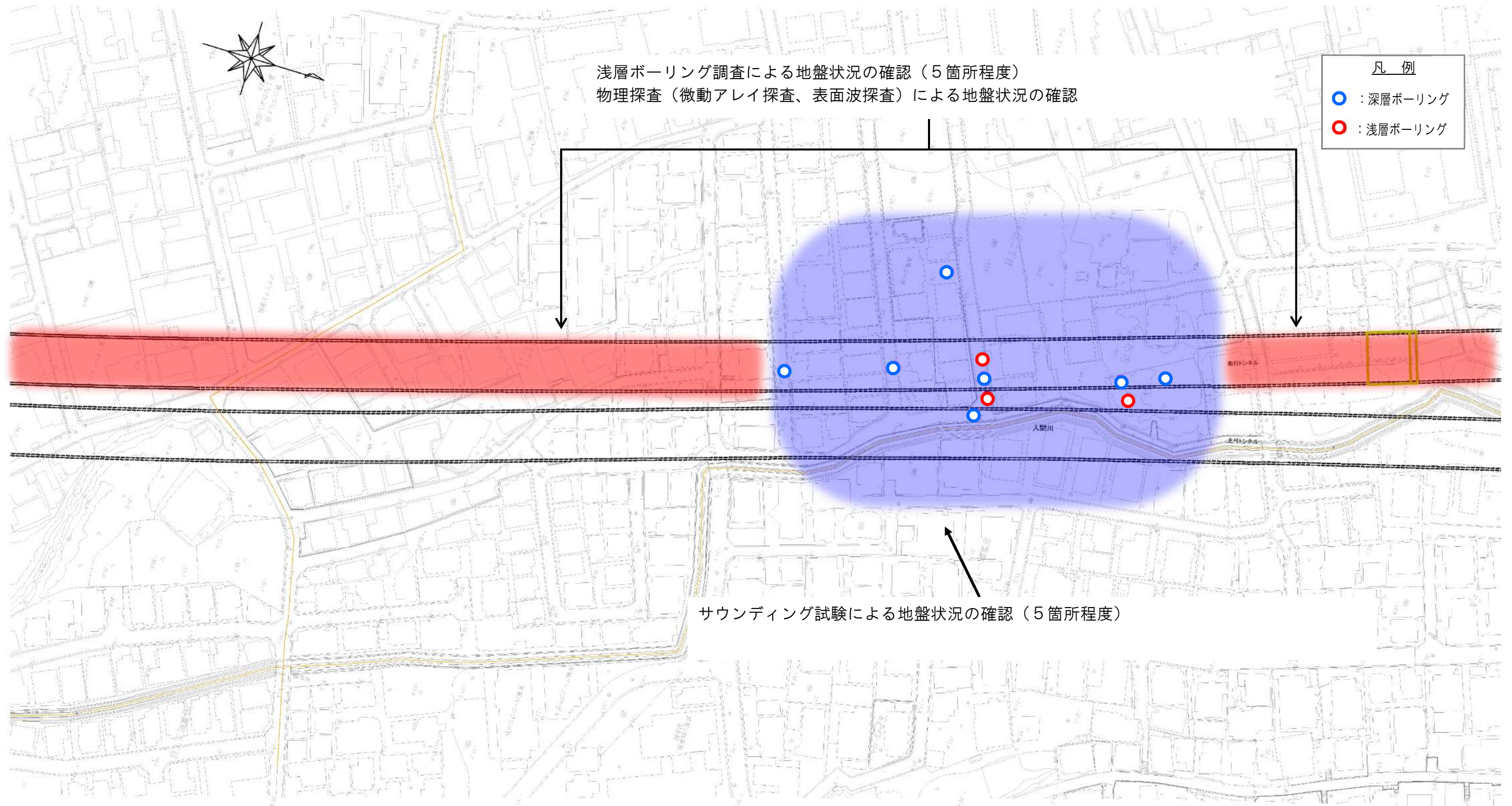
【表面波探査】

地表面から行う地盤の物理探査手法。地表面を起振することにより、種々の周波数で地盤を加振し、この振動を測定・解析することにより地下の構造を把握する。



表面波探査の概念(イメージ)

エリアA詳細平面図



＜参考＞トンネル掘進状況について

トンネル坑内の状況(令和2年11月21日 19時頃撮影)

掘進を行った区間のトンネル坑内にセグメントのひび割れ・漏水などは発生していないことを確認した。



写真1 坑内状況写真(マシン上部)



写真2 坑内状況写真(マシン下部)



写真3 坑内状況写真(空洞発見箇所付近右側)

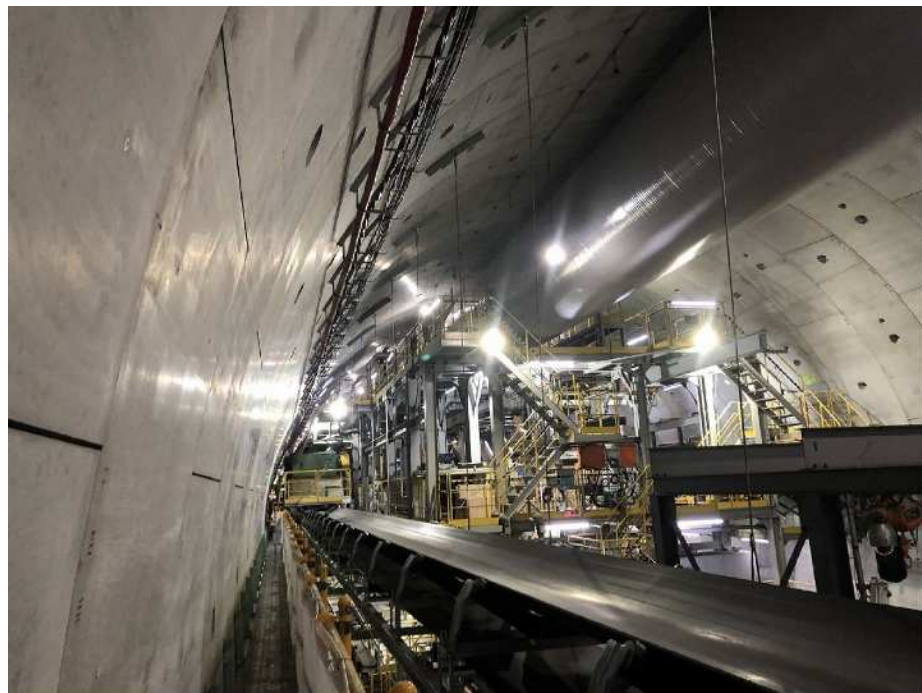


写真4 坑内状況写真(空洞発見箇所付近左側)

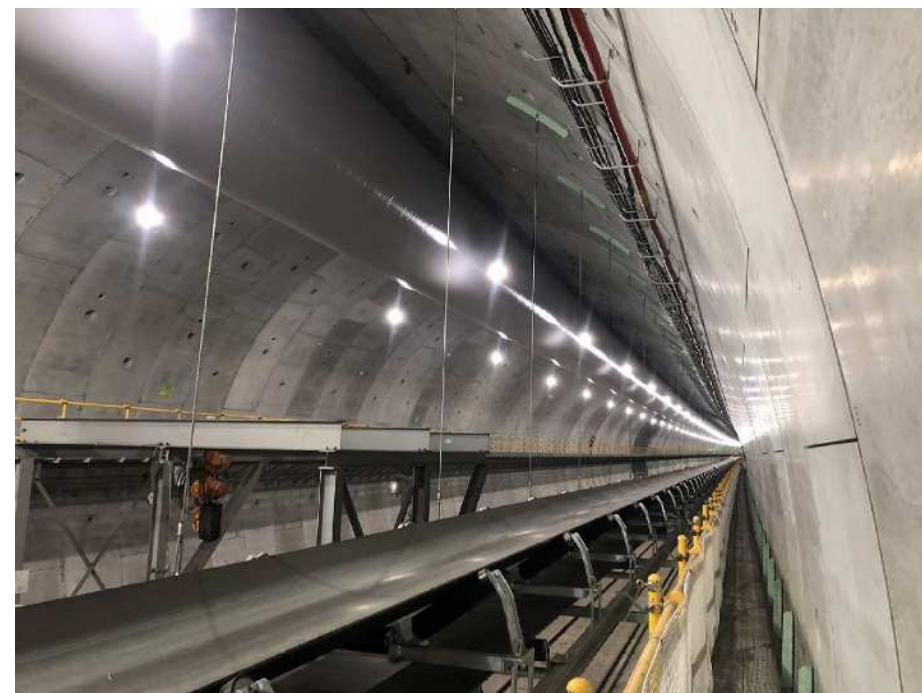


写真5 坑内状況写真(空洞発見箇所付近セグメント状態)

第4回 東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会

地表面陥没箇所周辺の調査の進捗状況について

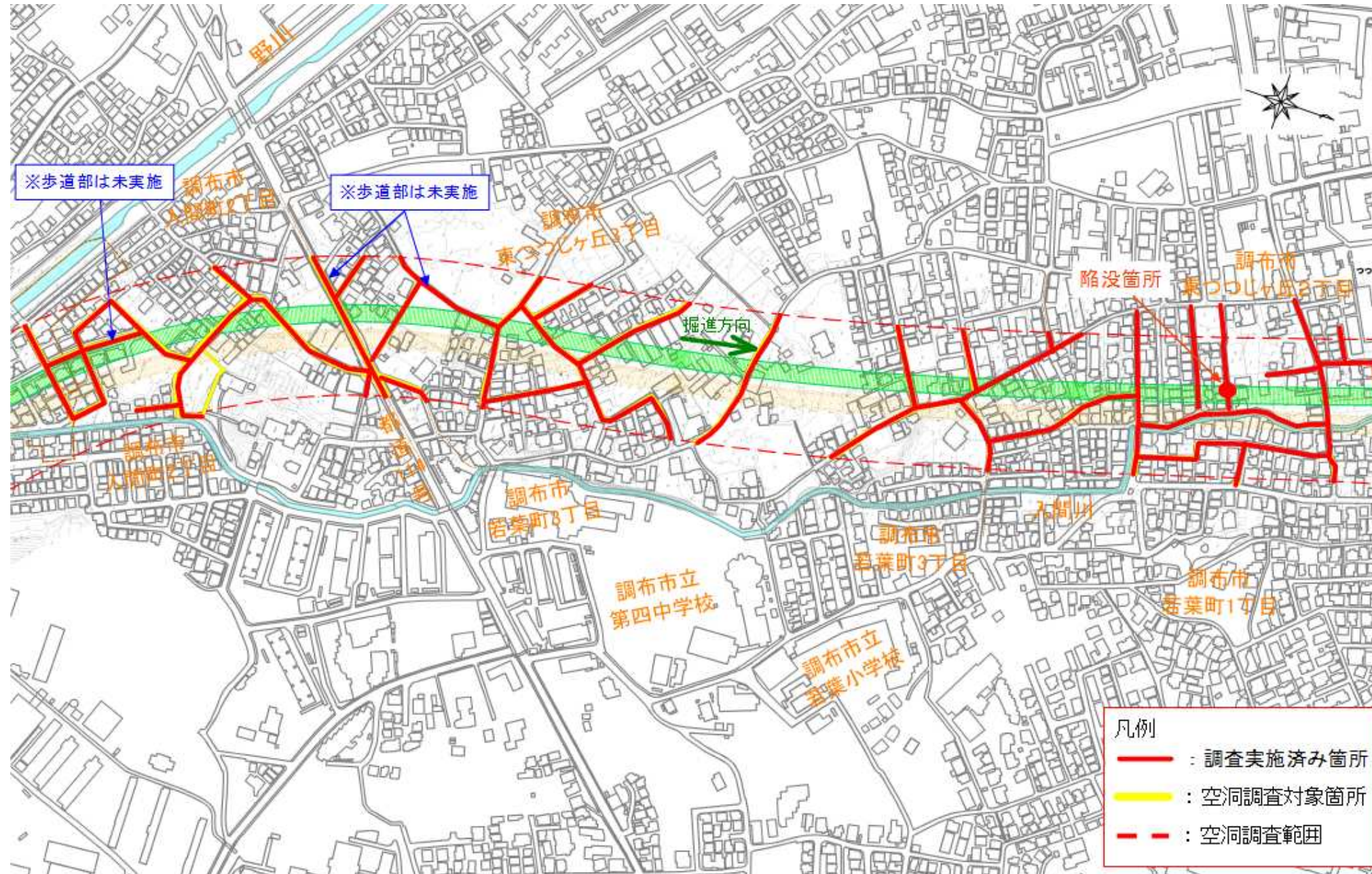
令和2年 11月 27日

東日本高速道路株式会社関東支社東京外環工事事務所
鹿島・前田・三井住友・鉄建・西武特定建設工事共同企業体

現在の調査の進捗状況について

調布市地表面陥没に関する調査の進捗状況について(令和2年11月26日現在)

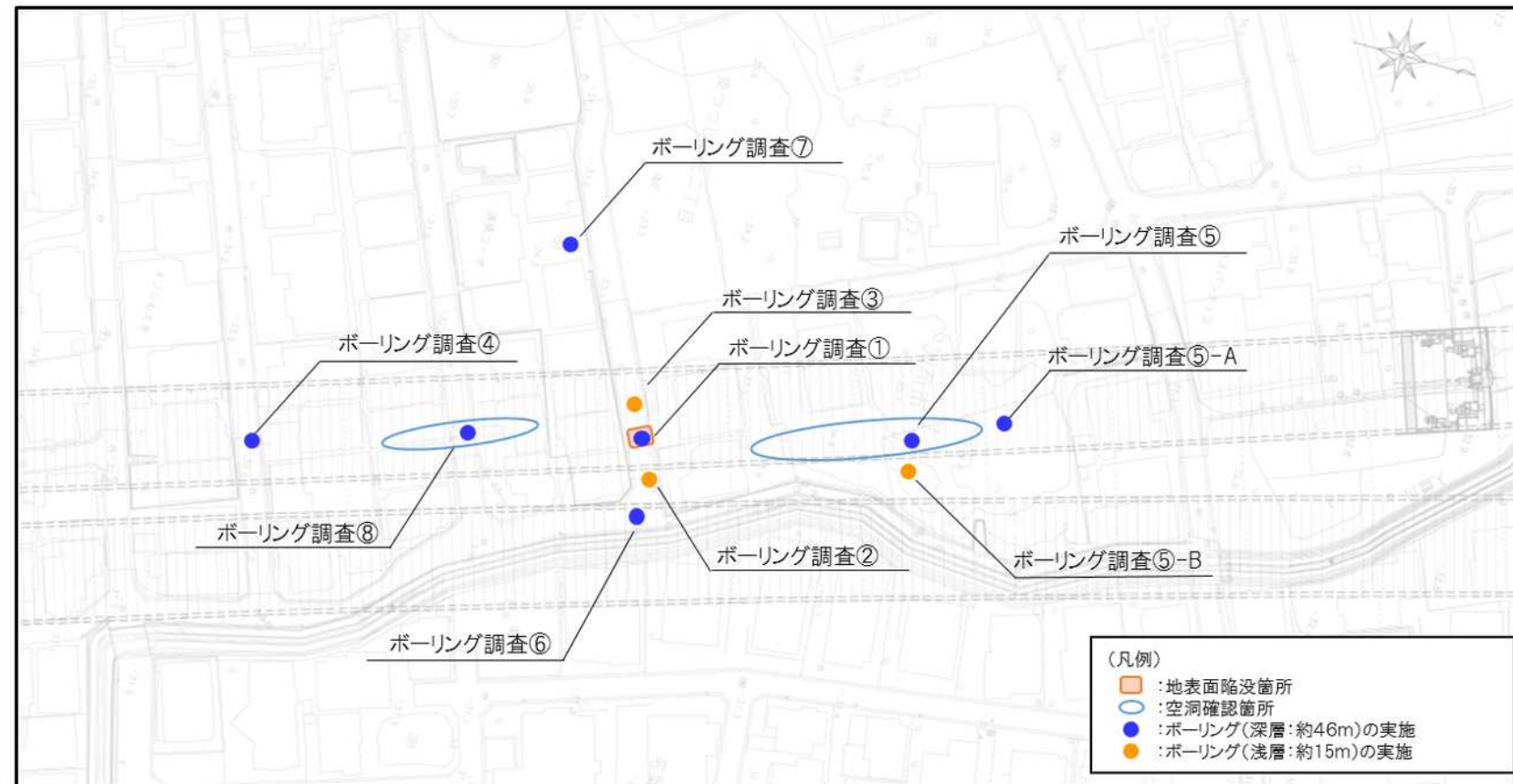
① 路面空洞調査



調布市内 約3.5km/約4km 調査完了(データ解析・確認中)
その他の沿線区市 協議中

②地盤状況の調査(ボーリング調査)

現在の進捗状況は、以下の通りである。(令和2年11月26日現在)
なお、ボーリング調査⑤⑧以外では、空洞は確認されていない。



※地盤状況等により、ボーリング調査内容は変更する場合があります。

《進捗状況》

① 46m(完了) ② 14m(完了) ③ 15m(完了) ④ 47m(完了) ⑤ 26m
⑤-A 45m ⑤-B 0m ⑥ 46m(完了) ⑦ 44m ⑧ 4m

③地下水状況の調査

・地下水位、流向、流速、水質について、分析中

④埋設物の状況確認

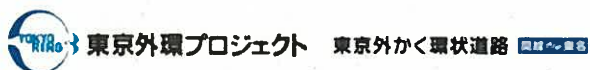
・企業者から埋設物図面を提供頂き、周辺の埋設物状況について確認中

⑤地歴、文献、施工データの再確認

・地歴、文献、施工データの再確認中

⑥地表面の常時監視(GNSS測量)

・関係機関と協議中



NEWS詳細

2020年一覧

2019年一覧

2018年一覧

2020/11/27 new

東京外かく環状道路事業に伴う家屋中間調査について

平素より、東京外かく環状道路事業にご理解とご協力いただきありがとうございます。

調布市東つつじヶ丘2丁目のトンネル工事現場付近において、地表面の陥没や地中の空洞が確認され、道路の通行止めを実施するなど、地域の皆様にご迷惑をおかけしております。

この陥没事象の発生以降、陥没箇所周辺にお住いの方から、家屋に損傷が生じていないか調査してほしいという声が寄せられており、調査を希望される方を対象に、建物等の損傷状況等を確認するための家屋調査を実施することといたしました。

なお、今回はあくまで現時点での調査を希望される方を対象として実施するものであり、今回の調査実施の有無に関わらず、今後も工事の進捗に応じて家屋調査は実施してまいりますのでよろしくお願いいたします。

[2020.11.27 家屋中間調査 お知らせ範囲図.pdf](#)

家屋中間調査お知らせ範囲図

